

科目名	ボランティア論						
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n)を参照				
開講期	春／秋	開講学部等	共通教育科目	配当年次	1年次	単位数	2単位
教員名	相川 康子						

授業概要／Course outline

市民のボランティア（自発的）な諸活動について、歴史や社会背景、行動原理や関連政策と関連づけて理解するとともに、非営利組織のマネジメントについても学ぶことができます。ボランティアに対して「お年寄りの世話や公園の清掃などの無償の奉仕活動」という限定的なイメージを持っている人も少なくないと思いますが、本講義ではNPO/NGOやコミュニティビジネス（CB）、ソーシャルビジネス（SB）なども含めて、地域社会の課題解決や社会変革を目指す市民活動全般を扱うので、幅広い教養が身につきます。また、ボランティアな行為や取組のプラス面・マイナス面の両方を考察したり、ボランティアをする側・される側双方の立場を慮ったりすることで深い思考力が養われます。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））

最終回のまとめをオンデマンド動画で実施します。

・実務経験のある教員による授業

講師は「ボランティア元年」と呼ばれた1995年の阪神・淡路大震災を地元新聞社の記者として経験し、社会人大学院で市民による救援・復興活動やコミュニティビジネスを研究。現在は、シンクタンク系NPO法人の役員として、複数の地方自治体の地域活動・市民活動を推進する委員会や、市民活動に対する助成金の選定委員を務めています。

授業内容・授業計画／Course description・plan

- （１）ガイダンス：スケジュールと授業内容の確認／導入
全体の狙いやスケジュール、注意点、評価方法等を説明し、自分の中の「ボランティア」に対するイメージを確認する。
- （２）基礎編①ボランティアのイメージを広げる
ボランティアの語源や理念、主な活動分野や活動形態の解説を聞き、ボランティアな活動の大枠を理解する。
- （３）基礎編②アプローチの手法
「人はなぜ利他的な行動をするのか」についてどのような解釈があるのか、宗教や倫理、心理学、政策論など多様なアプローチ手法の一端を学ぶ。また「寄付」の変遷を通じて、公共的な課題に関する市民の関与のあり方を考える。
- （４）～（８）歴史編：５回シリーズで市民活動の歴史と変遷を学ぶ
 - 近隣同士の互助から、博愛を旨とする近代ボランティアへ
 - 戦中・戦後の市民活動の変遷、戦後憲法の「公私社会福祉分離の原則」の意味
 - 在宅福祉路線と「有償ボランティア」をめぐる論争
 - 活動分野の広がり（環境、まちづくり、国際協力etc.）と組織化
 - 阪神・淡路大震災のインパクト～特定非営利活動促進法の制定へ
 - 公益法人改革と新しい公共の模索
 年表や統計資料、行政や研究機関の報告書などを読み解きながら、近代ボランティアが発生した背景や活動内容、担い手の変化、政策とのかかわりに関する概要をつかむ。※途中、中間レポートを提出する。
- （９）対象にどう向き合うか①：支援と受援の関係を考える
ボランティアをする側とされる側の両方の気持ちを考えることで、上下ではなく対等な関係を結ぶ方策を考える。
- （１０）対象にどう向き合うか②：ボランティア拒否宣言を読み解く
障がい者が記した「ボランティア拒否宣言」という詩を読み解き、障がい者問題とアドボカシーの歴史、最近の事件や政策動向について考察する。
- （１１）今日的な課題を考える①：足元から世界へ
身近な事例から発想を広げ、課題解決に資する新たなサービス（ボランティアもあればコミュニティビジネス（CB）やソーシャルビジネス（SB）の形態を採ることもある）や企業の社会貢献について学ぶ。
- （１２）今日的な課題を考える②：現在と近未来の活動を展望する
家族や地域コミュニティの変化、貧富の差の拡大、グローバル化や情報化への対応といった今日的な地域課題や

社会課題についてデータを読み解き、どのような解決策があるのかを考えてみる。

(13)～(14) 非営利組織のマネジメント編

- 営利組織と非営利組織との相違点
- 組織運営／ボランティア・コーディネート／情報共有
- 資金調達
- 広報／連携／評価

どうすればボランティアのモチベーションが高まるか、活動に必要な資金をどう調達するか、どのように広報すれば協力者が増えるかなどを考えてみる。

(15) 講義のまとめ ★オンデマンドで実施

講義全体を振り返り、ボランティアな活動を支える仕組みについて考察する。80分程度の解説動画を15回目実施日の前日から2週間、Moodleにアップ（またはOneDriveに格納してMoodleで告知）するので、期末テストの準備も兼ねて視聴すること。

事前・事後学修／Preparation and assignments

本講の狙いは、地域や社会が抱える課題についてボランティアやNPO／NGOなどの率先的な市民らが、どのように取り組んできたか・取り組もうとしているかを知り、自分にできることを考えることです。経済社会や政策の動向、地域社会の実態等について関心を持つておく必要があるため、新聞やテレビのニュース等から幅広く情報を得たり、インターネットで関連情報を検索したりする習慣をつけてください。また「ボランティア入門」や「ボランティア実習」などの実践科目を併行して受講すると、理解が深まります。

事前・事後の学習として、初回ガイダンスでは、事前にシラバスをよく読み（所要時間の目安30分）、後にガイダンスの内容を振りかえるとともに「ボランティア」をネット検索するなどして、どのような活動があるのかイメージを広げてください（所要時間の目安30分）。

2講目の「基礎編①」では事前に地元又は全国のボランティアセンターのWEBでボランティアの活動分野を概観し（所要時間の目安50分）、後に実践者のインタビューなども読んでみてください（所要時間の目安50分）。3講目の「基礎編②」では、その情報を発展させて、ボランティアの実践者（身近にいない場合はネット情報でも可）に始めた動機ややりがいなどを聴いてみる課題を課します（調査、インタビュー、記録等で所要時間は6時間程度）。

4講から8講までの「歴史編」では、事前学習として中学・高校で学んだ近現代の日本史の主要な出来事や経済動向を思い出しておくことが必要です。とくに明治以降の近現代史を学んでいない学生は、高校生向けの日本史参考資料などをみて、主要な出来事や政治の変遷、産業発展の歩み、戦争前後の世相といった一般教養的なことは予習しておいてください（各回の所要時間の目安：日本史の基礎知識のある人60分・ない人は90分）。事後には、時代の流れを数字で確認するため、政府統計の総合窓口（e-Stat）などから、人口・世帯や経済に関する統計を調べて長期的な動向をつかんでおくといでしょう（各回の所要時間の目安：60分）。また、このシリーズの中で有償ボランティア論争など歴史編で学んだテーマに関するレポートを課します（レポートの文献読み込みや論考、執筆などに必要な所用時間は10時間程度）。

「対象にどう向き合うか」単元の、9講目では、事前・事後にボランティアを受ける人の気持ちについて考えてみましょう（各30分）。10講目では、事前に障がい者解放運動の経緯を調べたり、最近の災害における被災者の心境について記事やニュースで基礎知識を得ておくことで理解が深まります（所要時間の目安30分）。事後学習として津久井やまゆり園事件などの記録を調べ感想をまとめること（所要時間の目安約3時間）。

「今日的な課題を考える」の単元では、11講目で現在や近未来のボランティア活動について考察するので、統計資料などから今後の地域や社会がどうなるか、事前に思い描き（所要時間の目安60分）、後に改めて「少子化・高齢化」や「地域格差」「貧困」「環境問題」「ウィズコロナ」などの影響について調べてください（所要時間の目安60分）。12講目ではコミュニティビジネス（CB）やソーシャルビジネス（SB）について学ぶので、関連する文献を少なくとも1冊は読んでみましょう（所要時間の目安は約5時間）。

「マネジメント編」では、13講目で非営利組織と営利企業とのマネジメントの相違点を学ぶので、事前に企業経営の基礎を自習しておくといでしょう（所要時間の目安20分）。事後学習として働き手の動機（モチベーション）や資金調達の手法、組織内外のコミュニケーション、広報などの違いについて整理してみましょう（所要時間の目安50分）。14講目は資金調達について考えるので、事前に非営利組織にかかる費用について考察し（所要時間の目安50分）、後にクラウドファンディングから興味深いプロジェクトを探してみましょう（所要時間の目安2時間）。

最終回の15講目はオンデマンドで実施します（解説動画90分）後にワークシートに記入し、学期全体の振り返りとして当初に立てた到達目標の達成度を自己評価してください。（所要時間の目安60分）。

授業の到達目標／Expected outcome

- ボランティアやNPO／NGOの必要性や多様性、さらに現代社会にどのような役割を果たしているのかを理解し、身近な活動として捉えられるようになる。
- ボランティアや市民活動の歴史を、経済・政治・社会状況の中で捉え直し、人々の意識や暮らしの変化、さらに政策動向も踏まえた上で、今後求められる活動について思い描けるようになる。
- 非営利組織のマネジメントを学び、将来、自分で活動を始めたり、支援したりする際の基礎知識を身につける。
- ボランティアをめぐるいくつかの論点について、賛否両論を見比べた上で自分の考えをまとめることで、幅広い

視野と論理的な思考、さらに自分の考えを伝える素養を習得する。 ○ボランティアや市民活動に関する情報がどこにあるか知り、適宜アクセスできるようになる。	
身につく資質・能力／Competencies to be attained ・ 思考力 ・ 幅広い教養	
履修上の注意／Special notes, cautions ○自発的な（ボランティアな）姿勢で臨んでください。 ○講義中の私語や立ち歩き、講義と関係のないスマホの利用、イヤフォン装着による動画や音楽の視聴などは禁止します。 ○広く社会の状況や市民活動に興味を持ち、関連ニュースを積極的に集めてください。 ○レポートやワークシートはその都度、書式を指示します。書式を守れていないものや安易なコピー、自ら考えていないものは評価の対象とはしません。AIの使用も禁止します。	
評価方法／Evaluation 中間レポート20%、ワークシート（5回程度）やフォーラムへの意見書き込み（随時）の内容が40%、期末テストが40% を目処に総合的に評価します。	
教 材／Text and materials テキストは特に指定せず、その都度、参考となる文献やWEBサイトを紹介します。 参考図書として ○岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子編『学生のためのボランティア論』大阪ボランティア協会（2006年） ○雨森孝悦著『テキストブックNP0 非営利活動の制度、活動、マネジメント 第3版』東洋経済新報社（2020年） ○大阪ボランティア協会ボランティアリズム研究所監修『日本ボランティア・NP0/市民活動年表 増補改訂版』明石書店（2022年） ○P. H. ドラッカー著（上田惇生・田代正美訳）『非営利組織の経営』ダイヤモンド社（1991年） ○大橋正明、利根川佳子著『NP0・NGOの世界』放送大学教育出版界5786（2021年） ○金子郁容 著『ボランティア～もうひとつの情報社会』岩波新書235（1992年） ○村井雅清 著『災害ボランティアの心構え』ソフトバンク新書（2011年） ○宮垣元 著『NP0とは何か 災害ボランティア、地域の居場所から気候変動対策まで』中公新書2809（2024年）	
質問や相談の方法／Instructor contact 非常勤講師なので、オフィスアワーはありませんが、講義終了後しばらくは教室または非常勤講師控え室に滞在して、質問に応えるようにします。連絡は大学支給のメールアドレス（k5536@cc.kyoto-su.ac.jp）あてにメールをください（通信トラブルを防ぐため、送る側も大学支給のメルアドから送るのが望ましいです。必ず件名を記し、本文に学生番号と氏名を明記すること）	
その他／Others ○「ボランティア入門」「ボランティア実習」を並行して受講することで、理解が深まります。 ○学内のボランティアセンターなどを活用してボランティアの情報を得てください。	